

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和5年11月15日／毎月1回15日発行

都医NEWS

Vol.
693

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部 77円

令和5年度関東甲信越医師会連合会定例大会	01
底流／地区医師会長連絡協議会報告	02
小平市医師会法人格取得50周年記念祝賀会 ほか	03
みどりの広場 ほか	04
ふれあいポスト	05
感染症豆知識 ほか	06
日本医師会生涯教育講座	07
地区医師会長からの一言	08



八王子 甲州街道のイチョウ並木

令和5年度 関東甲信越医師会連合会定例大会

超高齢・人口減少社会における真の共生社会の実現に向けて、関東甲信越医師会連合会は、コロナ禍の教訓をもとに、いかなる事態にも対応し、

10月1日(日)、栃木県内のホテルにおいて標記連合会定例大会が開催された。東京都医師会からは尾崎治夫会長はじめ22名の役員が参加した。来賓には日本医師会から松本吉郎会長、茂松茂人副会長、猪口雄二副会長、長島公之、江澤和彦、宮川政昭、細川秀一、黒瀬巖各常任理事が招かれた。

大会では、令和4年度関東甲信越医師会連合会事業報告として、当番の東京都医師会より報告を行った。令和5年度に関しては、当番の栃木県医師会による同事業報告に続いて、医師会共同利用施設分科会については山梨県医師会より、医療保険部会、介護保険・地域包括ケア部会、救急災害部会については栃木県医師会よりそれぞれ報告がなされた。

④国民の信頼に基づく「かかりつけ医機能」が発揮できる医療提供体制等の環境を整備すること

⑤医療DXの推進は、国民や医療現場に混乱や不安をもたらさないよう、安全面に

①国民皆保険制度の堅持、全世代型社会保障実現のための十分かつ安定的な社会保障費の財源を確保すること
②医療機関の経営安定と医療従事者の労働環境改善を見据えた2024年度の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定を行うこと
③医師の働き方改革を進めるにあたって、医師の健康と地域医療の存続が両立できるように、柔軟な運用を図るとともに、国民に正しい医療のあり方について周知すること

将来にわたり、我が国の医療制度を適切に維持・発展させるために、政府に以下の事項を要望することを決議した。



松本日本医師会長の挨拶

医療制度を維持・発展させるため8つの要望を決議

配慮しながら、十分な財源と丁寧な議論を進めること
都道府県資格の創設等を検討すること

⑥医薬品の安定供給のための体制構築は国の強いリーダーシップによって産業構造を強固なものにすること
⑦新興感染症等にも対応できる地域医療構想、保健医療計画を策定すること

その後、特別講演として国際医療福祉大学の鈴木康裕学長より「財源を含め、医療界が抱える課題をいま、振り返る」と題し講演があった。

⑧准看護師養成教育と併せて介護教育等を施したうえで、地域における医療と介護の円滑な連携を図るための人材となるよう、新たな開きとなった。



特別講演の様子

地区医師会長 連絡協議会報告

令和5年10月20日(金)

- ◎都医からの伝達事項
- (1) 令和5年度第2回・第3回東京JMAT研修会の開催について
- 標記研修会を12月3日(日)、12月17日(日)の午前9時より東京都医師会館にて開催する。第2回研修会からプログラムを改訂しており、既受講者もあらためてご参加いただけることから、積極的な参加を呼び掛けた。
- (2) 第6期「東京在宅医療塾」開講に伴う受講者募集のお知らせについて
- 在宅医療を始めたい、あるいは始めたばかりの会員等を対象に開催するので、会員周知のご協力をお願いした。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の令和5年10月以降の医療提供体制の移行等に関する東京都の対応の一部改正について
- 10月以降の医療提供体制の移行等に関する東京都の対応について、本年9月29日付で東京都の対応の一部が改正された。外来・入院医療体制、公費支援の取扱い等について追記されたので報告した。
- (4) 令和5年度児童虐待対応研修【基礎講座第2回】の開催について
- 本研修は都内医療機関の職員等を対象に、11月10日(金)23日(木・祝)にオンライン(YouTube)で動画配信されるので、会員周知のご協力をお願いした。
- (5) 都内における咽頭結膜熱の流行に係る情報提供等について
- 都内において咽頭結膜熱の患者数が増加しており、本年10月2日〜8日の患者報告が警報基準に達したため報道発表された。都内の咽頭結膜熱の患者報告が都全体として警報基準に達するのは、感染症法が施行された平成11(1999)年以来初めてとなることから、受診患者等への注意喚起をお願いした。
- (6) 会見動画等の閲覧並びにその周知に対するご協力をお願いについて
- 日本医師会では、記者会見の開催等により日本医師会の考えを説明している。特に本年は年末の予算編成に向け、診療報酬改定や医療DX等に対する日本医師会の考えを日本医師会ホームページ等で発信していくので、会員周知のご協力をお願いした。
- ◎地区医師会からの報告
- (1) 中央ブロック
- ①第16回浅草医学会について(浅草医師会)
- ◎出席者による意見交換
- ◎その他
- (1)「都医Fees」の開催について
- (2) 城西ブロック
- ①東京都地区医師会における肺がん検診についてのアンケート調査結果について(世田谷区医師会)
- (3) 多摩ブロック
- ①立川市医師会創立100周年・法人格取得50周年記念祝賀会の開催について(立川市医師会)
- (4) 都立病院医師会
- ①東京都立病院機構 がんに関する講演会の開催について(都立病院医師会)

底流

医療DXのこれから

電子処方箋・標準型電子カルテのその先は

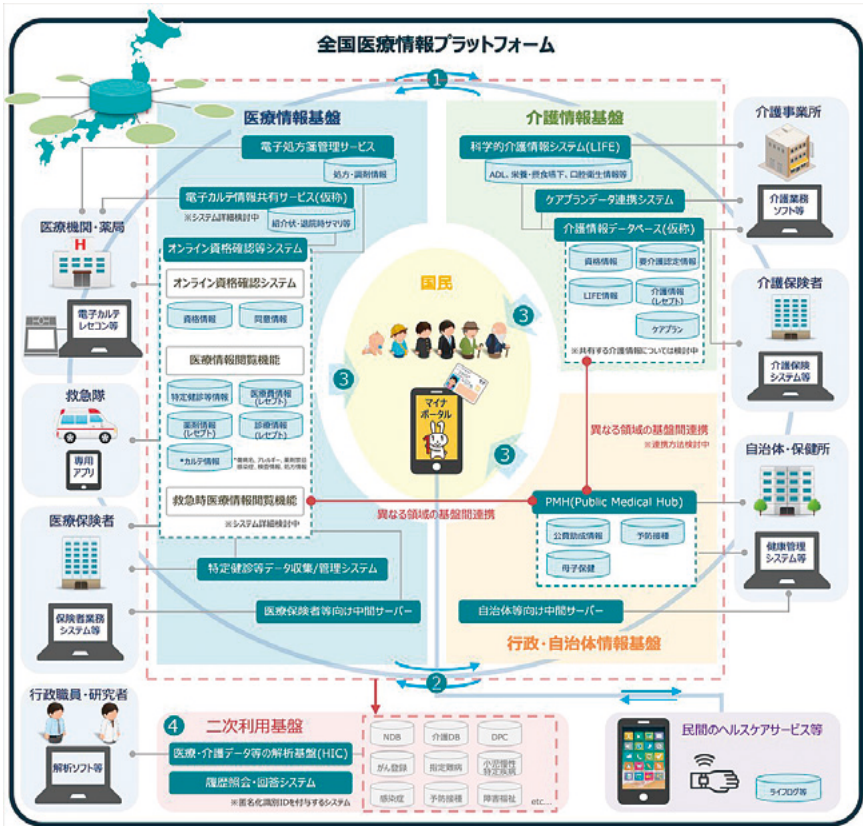
国が進める「医療DX」は、始まりのオンライン資格確認(以下、オン資)の不具合から出だしてつまづいている。それだけでなく、続くはずの電子処方箋も、電子カルテ・レセプトコンピュタ(レセコン)の開発遅れやベンダー(メーカー・導入業者)の手不足から設置がままならず、一向に導入数が伸びていない。

オン資そのものの準備は9割近々の医療機関で整ってき、インターネット(IPV4)からより安全な準閉鎖網(IPV6)に移行させ、国中に張り巡らすことにある。これが「全国医療情報プラットフォーム」であり、これまで使いにくいと敬遠されていた介護にかかわるシステム「LIFE」や健康診断・予防接

テ情報の標準化と、2030年を目途とした医療機関への電子カルテ普及率100%を目指して進行しつつある。電子カルテをどのようなものにするか、メーカーに向けた技術資料(指標)も明らかにされつつある。しかし、これまで電子カルテなどを未導入の医療機関からは「われわれを取り残すのか」「廃業しろ」ということか」などの声が上がっている。これはもっともな話であり、紙カルテからの移行はかなりの苦勞を要する。国はどうしても自力で電子カルテ移行ができない医療機関のために「標準型電子カルテ」と称するWebアプリケーション(Webブラウザ上で動作するソフトウェア)を開発していると言われている。問題はこれが出来上がってからの使い勝手であり、これまで国が医療のために用意したHERSYS・VRS・G-MISなどのWebアプリケーションはあまり使い勝手がよくないことから、できれば完成前に一般の実地臨床医に評価させてほしいと要求しているが、まだ反応は得られていない。

国が考えている医療DXの最終形態は、こうした電子カルテの標準化・標準型電子カルテをもって医療側の電子化を完了し、介護・自治体管理医療データ統合・住民のスマホでのPHR、という一連の構築を進めることであり、その概要は8月末に厚生労働省から発表された。今後また機会をつくって会員諸氏に動向をお伝えしたい。

(目々澤肇)



出典：第4回「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チーム資料(2-2)



FM93 AM1242 月曜から金曜
ニッポン放送 あさ6時15分頃から

『モーニングライフアップ 今日の早起きドクター』

放送中!

ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員・委員会委員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。

過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

番組ホームページ

<http://www.1242.com/cozy/>

ポッドキャスト

<https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>

飯田浩司の
OK! Cozy up!



小平市医師会法人格取得 50周年記念祝賀会

9月30日（土）、都内ホテルにて小平市医師会法人格取得50周年記念祝賀会が盛大に開催された。司会の伊藤敬雄小平市医師会理事による開会の辞で幕をあげた。

オープニングアクトとして、全日本吹奏楽コンクール全国大会17回出場（都内の中学校では最多）の小平市立小平第三中学校吹奏楽部による



清水小平市医師会長の挨拶



アトラクションのサクセス演奏

清水寛小平市医師会長の挨拶では、小平市医師会が法人格を取得した50年前はオイルショックの年であったこと、近隣市に先んじて心臓診療所を開設し住民のために活動する医師会を実践してきた等、医師会の歴史が世相と並べて振り返られた。特に直近10年は自然災害や感染症（新型コロナウイルス）の流行など医師会にとっても大変な時を過ごした。会員をまとめ医師会を牽引してきた奥村秀前会長の功績を讃えるとともに、コロナ禍に急逝されたことを惜しんだ。

その後、尾崎治夫東京都医師会長、小林洋子小平市長による来賓祝辞、坂本哲也公立昭和病院長の発声で乾杯、続けて窪田幸東京都医師会代議員、議長、松本洋平衆議院議員、末松義規衆議院議員、羽生田たかし参議院議員からの祝辞と、会は粛々と進んだ。



100年の歴史をスライドと共に振り返る

アトラクションとして、女性6名のサクセス奏者によるユニットLady Honkersの演奏が行われた。皆が良く知る楽曲に会場が盛り上がった。演奏は2部構成で、第一部と第二部の間には小平市医師会の歴史を物語るスライド上映も行われた。小平市医師会は1951年に設立され、1973年に法人格を取得した歴史を有する。1982年に竣工した旧会館は、2018年に新築され現在に至っている。訪問看護ステーション、ケアマネージメントセンター、応急診療所等を設

ス、白矢勝一理事（ギター）が共演し「亜麻色の髪の乙女」が披露された。結びに矢口誠小平市医師会副会長より閉会の挨拶があり、楽しいひとときはお開きとなった。

立川市医師会創立100周年・ 法人格取得50周年記念祝賀会

10月14日（土）、都内ホテルにおいて、立川市医師会創立100周年・法人格取得50周年記念祝賀会が多数の会員と来賓の出席のもとに盛大に開催された。立川市医師会の足立哲也副会長の開会の辞に続き、村上幸人会長の式辞で始まった。

来賓祝辞として酒井大史立川市長、武見敬三厚生労働大臣、平川博之東京都医師会副会長が登壇された後、阿川忠郎立川市医師会監事の乾杯で華やかな宴が始まった。立川市在住で市の「たちかわ交流大使」も務められており、国内外で大活躍されるジャズ界のレジェンド山下洋輔氏による素晴らしいピアノの演奏に会場全体がうっとりとしている雰囲気の中、特別に用意された美酒と料理が提供された。祝宴中にも片岡滋立川市歯科医師会長、古谷美穂子立川市薬剤師会長、小田原きよし衆議院議員、羽生田たかし参議院議員、



村上立川市医師会会長の挨拶



ジャズピアニスト 山下氏による演奏

188 みどりの広場

少子化時代だからこそ 小児医療の充実を 目指します

地方独立行政法人東京都立病院機構
東京都立小児総合医療センター 院長

廣部 誠一

ファミリードッグのアイビー(写真)は、都立小児総合医療センターの常勤職員としてコロナ禍で大活躍でした。小児患者は、コロナ禍では面会、遊び等が制限され笑顔が少ない環境でした。そんな中、アイビーが、子ども達を笑顔にしてくれたことは不幸中の幸いでした。当院の5つのビジョンの一つ、

②東京都における小児医療の拠点

厚生労働省の小児医療に関する計画は、三次医療圏に1カ所の中核病院、二次医療圏に地域小児科センターを整備し、互いに機能を分担することであり、当院の使命も三次救急、高度専門医療の提供で

す。新型コロナウイルス感染症でも本来、軽症は二次医療機関、重症は当院と役割分担できるのが理想ですが、総合病院は、高齢者をはじめとした成人患者への対応で手一杯となり、特に低年齢の小児患者までは軽症であっても手が回らない状況となりました。結果的に、軽症から重症まで



「小児の患者全てお引き受けたいします」が当院の姿となりました。また、コロナ禍で少子化が加速しました。少子化は日本より進んでいる韓国では、小児科医の減少、救急医療の危機による子育て不安で、更に少子化が加速しています。よって、少子化対策として、「病気になる前から安心な医療環境が大切で、当院には安心な医療環境の拠点としての役割があります。そのためにも一次、二次、三次の区別をせず受け入れるER体制としています。コロナ

なまで見守る成育医療は小児病院の役目です。また、移行期医療チームが、自立支援、成人診療科に転院する支援活動を行っています。医療的ケア児に対しても成育・移行期医療が重要で、令和4(2022)年9月には院内に東京都医療的ケア児支援センターを設置し、地域の医療機関、福祉、行政と連携して療育支援の体制づくりに力を入れています。当院では特に、慢性の特定疾患や難病患者に対して、高校生などのAYA世代も入院できる療養環境を整備しています。

都医からのお知らせ INFORMATION

第27回板橋区医師会医学会

開催 板橋区医師会事務局 URL: <https://www.itb.tokyo.med.or.jp/gakkai>

〔演題発表／教育講演〕

日時▶ 12月2日(土) 13時30分～18時
会場▶ 板橋区立文化会館2F小ホール ほか
プログラム▶ 医療・介護に関する一般演題、要望演題、ポスターセッション 演題計74題
／教育講演「保険診療で行われるがんゲノム医療について」河野隆志(国立がん研究センターがんゲノム情報管理センター(C-CAT)センター長)

対象▶ 医療関係者、介護関係者
取得単位▶ 日医生涯教育1単位(CC:6)

申込方法▶ 教育講演は右記2次元コードよりお申し込みください(演題発表聴講は申込不要)。

〔区民公開講座〕

日時▶ 12月3日(日) 13時30分
会場▶ 板橋区立文化会館大ホール
プログラム▶ 東京都相互理解のための対話促進支援事業「在宅で療養生活を送るには」／特別講演「肺の病気を知らう～気管支ぜん息とタバコ肺(COPD)～」長瀬洋之(帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 教授)／シンポジウム「最期まで自分らしく生きるために『人生会議』」竹下 啓(東海大学医学部基盤診療学系医療倫理学領域 教授)ほか
対象▶ 区民
参加費▶ 無料(定員1,200名)
申込方法▶ 右記2次元コードまたは医師会ホームページよりお申し込みください。
申込締切▶ 定員になり次第締切



カフェと記念館へ続く散歩道



次郎の愛した親子丼(上)と秘伝のカレー(下)

レストラン&カフェ武相荘

白洲次郎が愛した
レシピを食す

趣味の散歩

少し気合を入れたウォーキングの目的地にするのがここ武相荘(ぶあいそう)。片道早めに歩いて1時間半。住宅街の一角に急に森のオアシスが現れる。一歩門をくぐると空気が変わる。町田市は神奈川県といるのを感じる。こういう場所をパワースポットとも言っただろうか。背筋が自然とピンと伸びる。

町田市は神奈川県といるのを感じる。こういう場所をパワースポットとも言っただろうか。背筋が自然とピンと伸びる。

が、廃藩置県前のこの地も、武蔵国と相模国の国境であった。武蔵と相模の境で武相、これが名前の由来だそう。武相荘は、決して多くない町田市ゆかりの有名な一人、白洲次郎の終の住処を改装してできている。白洲次郎は昭和初期の激動期を駆け抜けた人物。ヒーロー視する方も決して少なくはない。武相荘には白洲次郎の記念館もあるが、私の今日の目的は併設しているレストランカ

フエ。歩いて消費した分を次郎の愛した親子丼や秘伝のレシピで作ったカレーで補う幸せの定番コース。いつもはカレーと親子丼のどちらか悩むが今回はウォーキングに付き合ってくれた妻とシェアで、両方とも味わえた。昭和の香り漂う建物とインテリア、器も当時のものを意識したこだわり。小旅行にきた気分になれる場所だ。ペロりと平らげた後は、デザートのだら焼きを食べてまた家まで歩か、食べない代わりに徒歩10分程の最寄り鶴川駅から車で帰るか、頭をフル回転しながらメニューをにらめっこするのもいいものパターン。

「子どもの成長とともに歩む医療の提供」病気を治すだけでなく、子どもの心身の成長環境にも配慮し、思春期を経て大人になるまで見守る成育医療は小児病院の役目です。また、移行期医療チームが、自立支援、成人診療科に転院する支援活動を行っています。医療的ケア児に対しても成育・移行期医療が重要で、令和4(2022)年9月には院内に東京都医療的ケア児支援センターを設置し、地域の医療機関、福祉、行政と連携して療育支援の体制づくりに力を入れています。当院では特に、慢性の特定疾患や難病患者に対して、高校生などのAYA世代も入院できる療養環境を整備しています。

医師国保からのお知らせ

家族の加入について

～住民票で同一世帯の家族の方は、
「全員一緒」に加入してください～

同一世帯の家族の方は、区市町村国保に加入できませんので必ず医師国保と一緒に加入してください。

ただし、健康保険や他の国保組合に加入している方は除きます。

詳しい内容、申請方法はホームページをご覧ください。
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)



新宿区医師会

矢谷達樹

日本将棋会館

令和5年4月27日、28日、藤井聡太6冠の名人戦が行われている。JR千駄ヶ谷駅は東京オリンピックに合わせて駅の改修工事が行われていた。駅の北側は新宿御苑。南側に改札口がある。まっすぐな道の左手には東京体育館がある。この道をまっすぐ300mぐらい歩いた場所に鳩森八幡神社がありこの近くに将棋会館はある。5階建てで、3階以上が対局室で一般は1階の売店と2階の将棋道場しか入ることはできない。売店には将棋盤、駒、プロ棋士の直筆色紙、扇子、将棋の書籍が置かれている。2階は将棋好きのお子さん大人が、平日、日曜日祭日に対局を行っている。この将棋会館が日本将棋連盟100周年に合わせて売却され、JR千駄ヶ谷駅前の千駄ヶ谷センタービル（現在建設中）に令和6年移転する。昔は将棋の映画といえば「王将」であったが、最近「AWAKE」「聖の青春」や「泣き虫しょったんの奇跡」など実話をもとにした映画が作られている。私は将棋が



日本将棋会館

好きであるが、平成に入って将棋の対戦はしたことがない。相手がいないためである。でもなぜか将棋が好きで情報は収集している。平成の初めにはいくつか話題になった事件があり、つい最近も将棋ソフトカンニング疑惑、マスク事件が持ち上がった。それをすべて払しょくして

くれたのが、藤井聡太7冠（9月末現在）である。AIの予想手にほとんど違えず指す手は神の手と呼ばれることもある。彼は高校を中退し将棋を目指した。中卒ですという彼の言葉に迷いを感じられない。今後新しい会館で活躍してほしい。

（新宿区医師会会誌 2023年5月 第727号より抜粋）



入間基地航空祭 2018

練馬区医師会 大野邦彦

田園調布医師会

荻原牧夫

今年こそ兎岳に登るぞ！

干支の名前の付く山「十二支の山」は、三省堂「日本山名辞典」によると、全国に931山ある。最も多いのが午の山で、馬の137山、午の1山、駒の63山で201山ある。その年の干支の山で未踏峰に登っ

てみようと思い立って、2021年丑年の最高峰「赤牛岳2,864m」に登った。昨年（寅年）は、秋田県の「虎毛山1,433m」登山を計画したが、2018年8月の豪雨災害により登山道が決壊し、現在もまだ通行

止めのため、結局、登れなかった。今年は、卯年の最高峰「兎岳2,818m」の初登頂を計画している。兎岳は赤石山脈南部の主稜線上に位置し、山頂は静岡県と長野県にまたがっているが、三等三角点2,799mは県境稜線をやや西に外れた長野県側にある。登山ルートは榎島を拠点とした3泊4日のハードな周回コースとなる。1日目：自家用車で畑薙第一ダムまで行き、宿泊者用送迎バスに乗り換えて、榎島ロッジ泊。2日目：榎島ロッジ発・樺段・赤石小屋・富士見平・赤石岳・百間平・百間洞山の家泊。3日目：百間洞山の家発・大沢岳・中盛丸山・小兎岳・兎岳・聖岳・奥聖岳・小聖岳・薊畑・聖平小屋泊。4日目：聖平小屋発・岩頭滝見台・聖沢吊橋・聖岳登山口・榎島ロッジ着となる。年男のたびに「兎岳に登るぞ」と、調心記で宣言しているが、次回の年男の84歳では絶対に登れない山なので、今年こそは実現したい。

（田園調布医師会新聞「調心記」2023年春号 No.214より抜粋）



雪化粧

武蔵野市医師会 藤田光裕

無 声 拝 聴

ワクチンは誰のために
接種するか？

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、女性がかかる子宮頸がんの原因と知られており、HPVワクチンは主に女性が子宮頸がんを予防するために接種されています。昨年4月より、HPVワクチンの積極的勧奨が再開されました。定期接種の対象年齢（小学校6年～高校1年相当）に加え、積極的接種差し控えの間、接種機会を逃した人に対してキャッチアップ接種が行われています。しかしながら、必ずしも接種率が高いわけではありません。さらに、中野区では全国に先駆けて男子のHPVワクチンの全額助成が始まりましたが、残念ながら接種率が低いのが現状です。これは、ワクチン接種の意義を十分に理解していないことや、ワクチンに対する不安や偏見があることが原因かもしれません。

男子に対するHPVワクチン接種には、咽頭がん、肛門がんや、性感染症である尖圭コンジローマなどの病気を予防する効果があります。さらに、HPVは性交渉等を通じて女性に感染させる可能性があるため、男性がHPVワクチンを接種することで、女性の子宮頸がんのリスクを減らすことができます。そもそもワクチン接種の意義は、感染や発症の予防、重症化の予防などが挙げられますが、自分の健康や命を守るだけでなく、パートナーや社会の健康や命を守ることもあります。そのため、ワクチン接種をすることは、思いやりや責任感を持つことでもあります。ワクチン接種率を上げることが、社会の姿勢や意識が問われていると言えるでしょう。

（宇野真二）

眼科感染症の動向

東京都感染症発生動向調査事業において眼科疾患で対象となっているのは、五類感染症定点把握疾患に指定されている「急性出血性結膜炎」と「流行性角結膜炎」の2疾患である。現在、東京都の眼科診療所及び病院眼科の39施設が眼科定点医療機関となっており、毎週患者数が報告されている。

急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎は、どちらも非常に感染力が強く、ウイルスが付着した手で目に触れたり、ウイルスで汚染されたタオルや洗面器などに触れることなどで感染する。急性出血性結膜炎は、エンテロウイルス70型及びコクサッキーウイルスA24変異型が原因である。潜伏期は1日で症状は、眼痛、異物感、結膜充血、結膜下出血、眼脂などである。特別な治療法はなく、対症療法を行い約1週間で治癒する。流行性角結膜炎は、アデノウイルスD種の8、37、53、54、56、64/19a型などが原因である。潜伏期は約1～2週間で症状は、結膜充血、流涙、眼脂、耳前リンパ節の腫脹などである。特別な治療法はなく、対症療法を行っても約2週間は症状が持続する。結膜に偽膜を形成する場合もあり、放置すると結膜に癒着を起こすことがある。角膜炎が出現すると角膜の混濁によって視力が低下することもある。

2022年の東京都感染症発生動向調査における急性出血性結膜炎の報告数は3人、定点当たり0.08人で、流行性角結膜炎の報告数は311人、定点当たり8.21人であった。どちらも過去10年間で2番目に少ない報告数であったが、最近の報告数は増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症の五類移行による人流の増加が要因と考えられる。

（文責：稲毛佐知子）

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

知っていますか？

ptosis

今更とは思いますが、気をつけるべきは、その発音で[tou.sis]である。しばしばプトースと発音されている場合がある。ちなみにドイツ語読みとの主張もあるが、その場合はdie Ptose[ptɔ:zə]である。また、ptosisの複数形はptosesとなる。

都医 HP・E メール

■ ホームページアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>

■ Eメールアドレス

jimu@tokyo.med.or.jp

第63回 東京都医師囲碁大会

令和5年9月23日（土）、雨上がりのひんやりした天候の中、日本棋院市ヶ谷本院にて恒例の東京都医師囲碁連盟主催の囲碁大会が開催された。新型コロナウイルスの影響を受けて3年ぶりの開催となったことに加え、参加者は大幅に減少し今回は46名、往時の4分の1となった。1つの医師会で5名の選手が選抜できず、混成チームとして参加したのが、2チームであった。また、残る6名は個人戦総当たり戦となった。

優勝した岸洋介先生率いる
目黒区医師会

はじめに東京都医師囲碁連盟会長の宮嶋建昭先生が開会の辞を述べ、次いで尾崎治夫東京都医師会長の祝辞が披露され、会場は大いに盛り上がった。更に、黄孟正日本棋院9段が審判長としてAI定石は適応を慎重にというアドバイスを含めた挨拶で会場を沸かせた。経過報告や競技ルールの確認があり、10時に対局宣言がなされ熱戦が展開された。

団体戦は、A組1位の目黒区医師会とB組1位の北多摩医師会が激突、5-0

で目黒区医師会が優勝、準優勝は北多摩医師会となった。3位 江東区医師会混成チーム、4位 練馬区医師会混成チーム、5位 足立区医師会、6位 新宿区医師会、7位 千代田区医師会、8位 中野区医師会となった。

個人戦は優勝 杉本和夫（中央区）4-0、準優勝 佐藤文秀（北多摩）3-1、3位 竹内龍雄（中央区）2-2、4位 今鷹耕二（北多摩）2-2、5位 高野、櫻井（北多摩、品川区）1-3、6位 竹森（品川区）0-4（敬称略）。

優勝、準優勝の面々には優勝カップと記念のメダルが授与され、来年の再会を誓い、4時半に無事散会となった。

東京都医師囲碁連盟では、囲碁をたしなむ先生の参加を希望しております。対人での対局は機械相手とは異なる趣があります。ハンディをつければ、段位にかかわらず楽しめます。お申し込み、ご相談は幹事 櫻井までご連絡ください（Fax：03-3445-1815）。

（東京都医師囲碁連盟 幹事 櫻井幸弘）

準優勝の佐藤文秀先生率いる
北多摩医師会

日本医師会生涯教育講座

事前申込制とさせていただきます。

日時 令和5年12月14日(木)午後2時～5時

オンライン(Webex)のみで開催します

日本医師会生涯教育制度 合計2単位

カリキュラムコード 61、73

【申込方法】研修申込システムにて申込

【定 員】100名

【申込締切】令和5年12月13日(水)

【問い合わせ先】

東京都医師会 広報学術課

TEL: 03-3294-8821 (代表)

※詳細は都医ホームページを
ご確認ください



関節リウマチの最新の治療

座長 杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科

教授 駒形 嘉紀

聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科

主任教授 川畑 仁人 先生

慶應義塾大学医学部リウマチ・膠原病内科

教授 金子 祐子 先生

主催 東京都医師会

関節リウマチの病因・ 病態に関する最新知見 川畑仁人先生

関節リウマチは多発関節炎を主徴とする膠原病であり、日本における有病率は0.7%程度、約80万人の患者がいる。その原因は未だ不明な部分も多いが、全身性自己免疫疾患の一つと考えられている。遺伝要因と環境要因が関連して生じた潜在的自己免疫の時期を経て発症し、多様な免疫担当細胞と関節構成細胞がサイトカインや細胞接触を介して滑膜炎や骨軟骨破壊に関与している。特に環境要

因では喫煙や歯周病、腸内細菌と病態との関わりが指摘されている。病態形成ではリンパ球の役割が注目されており、病変局所での自己抗体産生に関わるT細胞やB細胞、炎症に関わる制御性T細胞由来ヘルパーT細胞の関与が知られている。本講演では治療や生活指導の観点から、これらの最新知見のオーバービューを行う予定である。

関節リウマチ診療の最前線 金子祐子先生

関節リウマチは、慢性破壊性関節炎を主体とする全身性自己免疫疾患である。以前は難治性で予後不良の疾患と考えられてきたが、近年早期診断のための基準や画像ツールの進歩、直接的に病態に介入する分子標的薬の開発などにより、関節リウマチの診療は著しく

進歩した。一方で、標準治療が困難な高齢発症患者の増加や複数の分子標的治療に反応性の乏しいdifficult-to-treat患者など、課題も多く残されている。本講演では、関節リウマチ診療の進歩と今後の展望について概説する。

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医NEWS

2023

Vol.
693

地区医師会長からの一言

西東京市医師会の公益事業 ～認知症対策とフレイル対策

西東京市医師会長 三輪隆子



西東京市医師会は、平成15年4月に旧 田無医師会と保谷医師会が合併して発足した新しい医師会です。両医師会の伝統を継承し、現在の課題に対処するために新たな公益事業を展開してきました。

特に超高齢社会と認知症の増加に対する対策に力を入れており、2017年からは公益事業として「認知症予防のための聴覚検診」を実施し、3年間の事業で1,400名以上の方にご参加をいただきました。難聴が認知症の危険因子であることは指摘されていましたが、検診結果の検討から、難聴は軽度であっても加齢・高血圧・糖尿病・脳血管障害など同様に認知機能低下に影響を与えることがわかり、この結果は体系づけられた調査研究として国際的学術誌に発表することができました。同様の研究は国際的にみても報告が限られ評価されており。

私は神経内科医として、病院勤務時代には脳損傷後の高次脳機能障害のリハビリテーションに携わってきました。開業医となってからは、認知症患者を多く診療するようになりました。認知症診療は、薬物療法や身体合併症の治療など医療面の関わりも重要ですが、本人の生きがいや居場所作り、看護する家族への対応など、診察室の中では収まらないことばかりです。病院で高次脳機能障害のリハビリテーションチームを立ち上げたように、“認知症の人を支えるチームを作りたい。しかし、小さなクリニックで一人の医師として何ができるのか？”と自問していた時、近隣の地域包括支援センターから研修会の講師

を頼まれました。お引き受けするに際して、「一緒に認知症の人や家族に介入する場を作ってくれますか？」とお願いしたところ、彼らの尽力と行政はじめ多くの方の協力を得て、西東京市で第1号の認知症カフェが誕生しました。この活動を通して、介護や福祉関係の専門職だけでなく市民ボランティアの方々とつながりができたことが、認知症診療において私の大きな経験となりました。今後は、認知症カフェなど地域における認知症活動に関わって下さる医師会員を増やせるように尽力したいと思います。

健康寿命を伸ばすためにはフレイル予防が重要です。当医師会でも、平成31年から公益事業「階段プロジェクト」に取り組んできました。市民講演会も実施していますが、とすれば意識の高い人だけが参加しがちです。もっと広く市民の方にフレイル対策としての運動の必要性を訴えるために、西東京市にある5つの鉄道駅で階段利用促進に関するメッセージのラッピングをする交渉を続けてきました。交渉は難航し、鉄道会社との交渉は頓挫しましたが、西東京市からペDESTリアンデッキ（駅前公共歩廊）の階段であれば、市も協力できるとの提案を頂き、令和5年10月に1本目の田無駅の階段ラッピングが完成します。来年には保谷駅南口の階段にも実施予定です。ラッピングを活用してフレイル予防取り組みのイベントを市と協力して行っていく予定です。皆様も田無にいらした際にはぜひご覧いただくと幸いです。